

足利大学 後援会 会報

第65号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

ご挨拶



足利大学後援会 会長

鈴木政弘

足利大学後援会会員の皆様、平素より本活動へのご理解ご協力厚く御礼申し上げます。

六月十八日に三年ぶりの対面形式で開催された令和四年度足利大学後援会総会にて承認していただき会長を仰せつかりました鈴木でございます。

コロナ禍となったこの二年間は前会長からの指名で副会長職をさせていただき、後援会理事会の開催も変則的であり、定期回数より少ない代表理事会への参加という形で議事進行に関わらせていただきました。

先にも述べましたが、この三年間は令和元年の台風被害でわたらせ祭が中止になった事に始まり、その後のコロナウイルスの影響で、後援会の活動としては令和元年度のクラブサークル助成金補助申請のプレゼン以降は学生とも直接かかわることが皆無となっております。また、理事会も感染予防の為、代表による少数での開催を余儀なくされ、年度が進むにつれ選任された理事の方同士も面識も薄い状態での運

営となっております。

本年度の後援会活動といたしましては、事業計画案に基づき理事会・総会を開催することにより、皆様の協力のもと会則にある活動の目的としての学生への福祉を増進し、本学教育目標の達成を行います。

その一部ではありますが、本学は工学部・看護学部ともに世の中において必要とされる専門職の基礎知識を身に着けることができ、両学部ともに在学中に取得可能な資格が多数あり、その合格者への支援も継続的に行っております。

環境面といたしましては、そこに通っている学生が充実した生活を過ごせるような整備や改善が必要となります。昨年度は新たに体育館となるAUGアリーナも完成し、その設備内の備品に関しま

しても後援会からの教育環境援助費として寄贈させていただきました。今後のクラブサークル活動などへ役立てていただけたと思います。

また、『わたらせ祭』を昨年同様のオンライン配信と一部対面のハイブリッド形式で二日間にて開催すると実行委員より連絡をいただきました。昨年からのオンライン配信での実施は遠隔地からもご覧頂けるので、来校する事が困難な方にも喜んでいただけたと思います。以前のような対面での開催が可能になった際は後援会も出店させていただければと思います。

昨年度まで困難であった支援活動が少しずつでも実行され、充実した学生生活を送り本学が学生にとつてのコンフォートゾーンとなるよう後援会の皆様におかれましては引き続きご協力の程宜しくお願いします。



長期にわたり、後援会にご尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

- 《退会役員》
- 会長 川崎 浩司
 - 副会長 吉原 一夫
 - 監事 田島由有子
 - 監事 柿沼 一義
 - 幹事 栗原 知子
 - 相談役 三田恵理子
 - 相談役 亀田 節子
 - 相談役 榎田 守邦
 - 相談役 若井 透
 - 理事 松苗 様

新任のご挨拶と これからの足利大学



学長

末武 義 崇

本年四月に莊司前学長の後を受け、足利大学学長に就任いたしました末武です。後援会の皆さまには、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。莊司前学長と同様に、皆さまの暖かいご支援の下、足利大学発展のために精一杯努力して参る所存です。

さて、一昨年の年初から猛威を

振るっており、新型コロナウイルスの感染拡大は、今年の七月に入つて第七波を迎え、未だに終息の目途が立たない状況です。結果的に、本学の教育・研究活動にも、引き続き大きな影響がもたらされております。しかしながら、昨年度から少しずつ対面授業の機会を増やし、今年度はほぼ全面的に対面授業を再開するなど、大学の活動が僅かでも通常の状態に近づきよう、教職員一同、学生諸君と共に一歩一歩努力を積み重ねている状況です。学生のクラブ活動や学園祭も、

まだ完全な形ではありませんが、少しずつ通常の状態に向かつて進んでおります。感染症対策を踏まえた大学の諸活動については、

看工両学部長、教務委員会、学生指導委員会、就職指導委員会の各委員長から具体的な説明がなされると思います。私からは、新任の学長として、本学の今後の展望について考えを述べさせていただきます。ただこうと思います。

学長として、現時点で私が考えております足利大学発展の鍵は、大きく三つのキーワードから成っております。一つ目は「SDGsに繋がる教育」です。SDGsは持続可能な世界を実現するための開発目標ですが、本学の場合、数十年前から再生可能エネルギーの教育・研究に継続的に取り組んでおり、SDGsに繋がる教育・研究については十分な実績があります。再生可能エネルギーに限らず、様々な分野における本学のSDGsに関する取り組みの具

ておりますので、ご確認いただければと思います。SDGsに繋がる教育の充実を図るために、学部・分野を問わず、本学の学生であれば誰もがカーボンニュートラルについて学ぶことができ、新たな教育プログラムの創設も準備しているところです。来年度の後援会会報で、詳しくご説明させていただきますつもりです。

二つ目は「DXに繋がる教育」です。本学は、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を育成する教育プログラムを構築し、昨年度、文部科学省の認定を受けました。通称MDASHと呼ばれる認定制度です。昨年度からスタートした制度ですが、栃木県下の高等教育機関としては唯一の認定となります。今後は、JSG MDASHを基盤として、それぞれの分野の応用力を養うDX教育に発展させていきたいと考えているところです。

三つ目は「国際化に繋がる教育」です。本学には、世界十四ヶ国二十校の姉妹校・協力協定校があり、積極的な国際交流活動を行ってきました。その内の幾つかの大学とは、短期留学を含む国際交流の機会を学生に提供してきた実績があります。コロナ禍にあつてもオンラインで交流の機会を継続してきました。また、二十ヶ国以上の留学生を迎え、二〇〇名以上の留学生を入学し、地方の私立大学には珍しく国際的な学修環境を整えてき

ました。今後もこうした環境をさらに充実させ、国内だけでなく世界で幅広く活躍し得る人材を育てていきたいと考えております。

まだまだ感染拡大の出口が見

コロナ禍三年目における 工学部の取り組み



副学長兼工学部長

安藤 康 高

後援会の皆様には、平素より教育、研究、就職に関するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

七月中旬より第七波の感染拡大が始まりましたが、感染対策をより一層強化し現状維持に努めたいと思っております。

二〇二二年度に入りましてもコロナ禍はまだ終息する兆しを見せませんが、ワクチン接種が順調に進んだことや感染対策の徹底により、行動制限は緩和されるようになりました。そのおかげもあり、今年度は四月二十五日から全て対面授業に切り替えることができ、大学もコロナ禍前の活気を徐々に取り戻しつつあります。しかしながら、記念すべき入学式が本来の形で開催できなかったことは、大変残念なことであり、学生の皆さん、保護者の皆様には誠に心苦しい限りでございます。

さて、工学部では、建学の精神である「以和為貴」に基づき、「心あるエンジニア」の育成に努めております。ASHE(アシエ)の名を冠した本学の教育プログラムは、初年度の習熟度別教育、全学年にわたつての少人数教育が特長であり、学生の皆さんが教員とコミュニケーションを取りながら自分に合った学習方法で工学の知識を得ることができるようになっております。教育に關し特筆すべき事項としては、文部科学省が制定した「数理・データサイエンス・AI」教育プログラム認定制度

看護学部の現状と

取り組み



看護学部長

杉原 喜代美

〔MIDASH〕に、本学は初年度である二〇二二年に応募し、「人工知能」「データサイエンス基礎」「アルゴリズムとデータ構造」の三科目で構成される「足利大学数理・データサイエンスA」教育プログラムがMIDASH（リテラシーレベル）に認定されたことが挙げられます。二〇二二年に認定されたのは全国で六十七校（私学は二十七校）のみであり、本学の教育が全国的にも高水準であることを改めて認識する良い機会にもなりました。なお、上記三科目は、工学部のみならず看護学部も受講可能な科目であり、全学的に展開しております。

また、国際交流活動も、姉妹校を中心に工学部・看護学部合同で再開しております。二〇二二年三月にはマリアノ・マルコス州立大学（MANSU）とのオンライン交換留学プログラムを実施し、成功裏に終了致しました。イリノイ大学スプリングフィールド校（UIS）との交換留学プログラムも、オンライン留学プログラムとして二〇二二年八月二十二日（八月二十六日の開催が決定しております）。

以上、簡単ではございますが、工学部の近況を報告させて頂きました。今後も学生の皆さんに充実した学生生活を送って頂けるよう、努める所存にございますので、後援会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

後援会の皆様には日頃よりご支援を賜り心より御礼申し上げます。

看護学部は開学九年目となり、卒業生は第五期生を輩出しています。令和四年四月に新入生八十八名を迎え、現在三三四名が在籍し、和の精神のもと心ある看護師の養成に努めています。看護基礎教育では、学内の講義・演習で学んだ知識・技術を臨地で患者様・対象の方のかわりを通して看護を学んでいただきます。実習を受け入れてくださる病院・施設のご協力で学修が深められます。

しかしながら、令和二年新型コロナウイルス感染症拡大に対して緊急事態宣言が発令されてから特に実習科目についていろいろな影響があったことは否めません。文部科学省厚生労働省から【実習等の弾力的な運用】他について、令和四年四月十四日事務連絡「新型コロナウイルス感染症の

発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所、養成施設等の対応及び実習施設への周知事項について」で、前事務連絡等（令和二年二月二十八日・令和二年六月一日・令和三年五月十四日付）と同様の対応が指示されています。

そのため本学としては、学修の到達目標を変えずに、状況を見て教育方法を臨地・学内・遠隔と変更してまいりました。どうしても学修内容が不足するところは、学内でシミュレーター学修や補講を行い、教育の質の維持・向上に向けて最大限の対応をとってまいりました。同時に患者様の安全、学生・教員の安全を最優先にしました。そのため、学生の健康管理には気を付け、毎日健康管理表に記録、実習二週間前からアルバイト禁止、実習施設ごとの感染防止対策を遵守しました。

今後とも国の方針に則り臨地実習等の教育活動を実施していきま

さて、社会は人口及び疾病構造の変化を踏まえた地域包括ケアシステム構築の推進に向けた適切な医療体制の整備が必要となつていきます。このような状況の変化に伴い、将来を担う看護職員を養成するための看護基礎教育の内容と方法について、現行の養成課程の枠組みを維持しつつ、具体的な検討がなされ、今回五回目の指定規則改正、所謂カリキュラム改正を行いました。

この保健師助産師看護師法に基づく保健師助産師看護師学校養成所指定規則は文部科学省・厚生労働省の合同省令で、大学も専門学校も守らなければならぬものです。本学は今年の新入生から運用が開始されたところです。

本学の国家試験合格率・合格者についてですが、看護師国家試験合格状況は、開学からほぼ全体の全国平均を上回り、本年二月五期生が受験した第二回看護師国家試験は、本学は合格率九十五・二％で七十七名が合格しました。第一〇八回保健師国家試験合格率は、本学は七十八％で残念ながら全国平均には達しませんでした。しかしながら合格者は四十一名です。他県他大学の多くは、保健師履修枠を二十名に制限をしています。たとえ合格率が良くても免許取得人数は限られます。本学は、その倍の人数の保健師免許取得が可能ということにも着目していた

だくと幸いです。これからも、国家試験対策委員会を中心に合格率のアップを目指していきます。その他看護学部最近のトピックスを三つご紹介いたします。

一つ目は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本城キャンパスにおいて新型コロナウイルス職域接種いわゆる大学拠点接種を、令和三年七月から九月に回目・二回目の初回接種、令和四年四月には三回目追加接種を法人本部（新型コロナウイルス対策本部）を中心に学園全体で取り組みました。看護学部教員は接種チームとして、学生・教職員・近隣学校の教職員等延べおよそ四三〇〇人の方へ接種業務を遂行し地域貢献できました。

二つ目は、五月に釈尊降誕会を開催しました。今後も年間行事として位置づけ仏教的情操教育による人間形成を目指したいと考えます。

三つ目は、ナイチンゲール生誕二〇〇年となる二〇二〇年より三年次生は、五月から領域別実習に臨むにあたりピンブローチを付け「誓願の詞」を誓い、看護に對する志を再認識するささやかな会を行ってまいりました。現在、コロナ禍の中、看護の力が改めて注目され、社会から大きな期待がよせられています。そのため、「和をもつて貴しと為す」を建学の精神として掲げ、心ある看護者の養成を目指している本学の使命を鑑み今年度から「看

護の日「誓願式」として正式に看護学部年間行事として開催することになりました。四月二十七日日本城キャンパス月見ヶ丘ホールにて、末武学長のお祝いの言葉に励まされ、ご来賓や教職員が見守る中、三年次生八十八名一人ひとりが二年間の基礎となる学びを

経て、自己の将来の目標に向かって主体的に歩みはじめました。以上看護学部の現状報告をさせていただきます。今後とも後援会の皆様におかれましてはご協力とご支援をお願い申し上げます。

「感染症防止対策を徹底した新しい対面授業」



工学部 教務委員長
小林 重昭

後援会の皆様には、日頃より本学の教育活動へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

感謝いたしております。授業に関しては、一昨年度より導入した「足利大学manaba」という学習管理システム(Learning Management System, LMS)を用いることにより、これまでのコロナ禍で構築してきたオンライン授業の良いところ、多くのオンラインコンテンツも積極的に取入れた新しい対面授業を行っています。

本年度は、新型コロナウイルスの三回目の大学拠点接種完了後の四月二十五日から、受講生が二〇〇名を超える授業を除くほぼすべての科目で対面での授業を再開しました。教室が密にならないよう配慮した教室配置、換気、不織布マスクの着用および授業後の消毒など感染症拡大防止対策を徹底した上で授業を実施しています。特に、授業後の机周りの消毒に関しては、学生の皆さんの積極的な協力に大変

「足利大学manaba」を使うとオンラインでどんなことができるのか、いくつか紹介したいと思います。はじめに学生は、①教員から配信される科目ごとの連絡事項や講義資料の受け取りをス

マートフォンやパソコンを使ってどこでもできます。②授業内容の理解度を確認するための小テストへの回答、課題やレポートの提出ができます。レポート指導は、対面でもオンラインでも受けられます。③科目ごとに個別指導の機能があるため、教室では「少し質問しづらいな」と感じるような内容についても教員に「対面で質問することができます。つぎに教員は、①対面授業で使用した講義スライドを復習用に公開できます。積極的に復習用コンテンツを活用している学生も多く見られます。②予め授業前に講義資料を配信し、対面授業時にその内容について議論・演習を行う反転授業(アクティブラーニングの一種)の実施に役立ちます。③出席状況に注意が必要な学生への指導、学修支援なども個別指導機能を使って行うことができ、学生とコミュニケーションを取る方法が増えました。

このようなオンライン授業の良いところを取り入れた新しい対面授業の実施によって、一人ひとりを大切にする足利大学の教育を大きく前進させています。今後とも工学部教務委員会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

新カリキュラムによる看護学部の教育課程



看護学部 教務委員長
沼田 加代

新型コロナウイルス感染対策が継続的に求められているこの春、登校により大学内で入学式や新学年のガイダンスが行われました。その後、四月は、一部、遠隔授業もありましたが、今現在のところは、授業や病院などの実習は、対面式で行われております。しかし、予断を許さない新型コロナウイルス感染だけ、いまだ、新型コロナウイルス感染前とは完全に同じ方式の授業や実習とまではいかず、一部、制限がありながらも授業が行われています。

看護学部では、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正による新カリキュラムが、この春に入学した新一年生から、適用となっております。現段階では、旧カリキュラムと新カリキュラムが混在する中での看護学部教育において、学生達が十分な学びを得て、国家試験に合格し、希望する就職や進学などに進めるよう教員は「丸」となつて、授業を展開しています。

さて、新生年から適用されている新カリキュラムでは、今の社会問題である少子高齢化対策とともに、医療の場が病院だけでなくとどまらず、支援対象の方にとつて、その人らしい日常生活を大切にしながら、病院以外の自宅などでも医療が受けられるよう看護実践ができる専門職の育成が求められました。また、この新カリキュラムは、各大学の独自性も加味したカリキュラム体系となっております。学生達は、看護の対象理解と多様化する健康問題や課題に対し、看護の役割の拡大にあって、四年間で学ぶ範囲が広がり、また、内容も深まりました。つまり、看護基礎教育において備えるべき必要な知識や技術、能力は高めなければなりません。卒業後の活動の場も多様化し、様々なことに取り組める選択が広がったともいえます。

新型コロナウイルス感染対策も求められている医療現場では、卒業した

学生指導・支援の取り組み



工学部 学生指導委員長
櫻井 康 雄

学生達も様々な戸惑いがありながらも専門職として活躍していることと思います。医療現場で活躍するには、在学中から学生自身の努力や明確な意思が必要といえます。どのような状況下でも、学生一人ひとりが、医療で活躍する自身の姿を在学中から思い描き、学生時代には、いろいろな方々とも交流をしながら、どんなことも学ぶ姿勢が必要ともいえます。後援会の皆様もご家庭では、学生との対話を大切にしながら、学生のご支援をお願いしたいと思っております。末筆ながら、学生一人一人が学ぶ楽しさを感じながら、大学生生活が満喫できますようお願いしております。

談会を、年度末の三月には成績が心配な学生を対象として学生と保護者が教員と面談する特別教育相談会を実施しています。コロナ禍の現状では、成績が心配な学生とその保護者を対象として電話で教員とお話いただく形式での相談会を九月と年度末の三月に実施することとさせていただいております。なお、希望があればオンライン（zoom）あるいはご来学いただき対面による相談もできます。

大学祭は十月九日、十日にオンライン（二部対面の予定）で行う予定です。保護者の皆様におかれましては、是非ともご視聴いただけますようお願い申し上げます。

今年度も学生支援課が保健室と強い連携をとり新型コロナウイルスの感染防止に努めております。しかしながら、新型コロナウイルスの感染防止には学生一人ひとりが基本的な感染対策を徹底して生活してもらう必要があります。このような状況に直面し学生は行動が制限され辛い状況にあります。学生指導委員会は学生支援課および保健室と連携しそのような学生の助けとなるよう活動していきます。ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

後援会の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。
二〇二二年度もコロナ禍に見舞われております。工学部学生指導委員会としてこのような中でできることは、出席履歴に基づいた修学支援と指導、電話による年二回の特別教育相談会、カウンセリング、クラブ活動再開のサポート、オンラインを主体とした大学祭の実施のサポート、特待生の選出です。これらを学生支援課および保健室と協力して実施しております。

ことを学生生活の面から実現するよう努力しております。そのベースとなるのが出欠管理システムです。このシステムで学生の講義出席状況を担当教員が一週間（一〜二回確認）します。出席に問題のある学生に電話やメールで連絡を取り、事情を聞きアドバイスし、必要であれば保護者に相談します。本年度からほとんどの授業が対面授業です。この状況に対応できない学生が若干名おり、そのサポートが現在の課題です。

例年、九月には学生を交えて保護者と教員が面談する教育相

学生指導・支援の取り組み



看護学部 学生指導委員長
中 村 史 江

本年度より、看護学部学生指導委員長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。後援会の皆さまには、日頃よりご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

看護学部学生指導委員会は、大学生が安心・安全で充実した学生生活を送ることができるよう目標達成を目指しています。未だ新型コロナウイルス感染症は第六波、第七波と続き終息の見通しが立っておりません。この対策としては、本大学の「新型コロナウイルス感染に係わる本法人の対応方針」に基づき、これまでの感染予防対策の継続に向けクラウド型教育支援システムHandaや各学年の前期ガイダンスを通して注意喚起に努めております。具体的には、マスクの着用、衛生的な手洗いをはじめとする自己管理、また、昼食時は会話をせずに食べる「黙食」を厳守し、密集、密接、密閉の三密の回避が重要であることの啓発に取り組んでお

ります。また、新入生には四月初旬に「フレッシュマンラウンジ」と称した、本校における第三回目となるワクチン接種の職域接種会場の見学や新型コロナウイルス感染症予防策についての講義を実施し、看護専門職を目指す学生として安心・安全に大学生活を踏み出す機会となりました。

看護学部では、アドバイザー教員が一人ひとりの学生生活をサポートしていく体制をとっております。そして、各学年一名のクラス担任がクラス全体のサポートを行っています。学生一人ひとりが充実した学生生活を送れるよう、公認心理士による学生相談や学生からの授業内容等に関する質問および学修方法、さらに大学院進学や就職先選定に向けて取り組む学生への個人的な相談を受けるための「オフィスアワー制」も充実させております。その他にも学費サポートにおける奨学金制度、事故や災害時のサポート等、様々なサポートを行って

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関しまして多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。昨年度の内定率は、工学部九十五・三％（就職者数二〇三名／就職希望者二百十三名）、大学院修士課程九十一・七％（十一名／十二名）、看護学部一〇〇％（七十八名／七十八名）となりました。学生はコロナ禍における就職活動に慣れてきたこともあり、前年度以上に多くの学生が内定を得ることができました。これも後援会の皆様のご支援あってのもの

と、重ねて厚くお礼申し上げます。昨年は、就活が本格的にスタートする三～五月がコロナ感染第四波と重なり、学生には大変な就職活動になってしまいました。さらに、夏季休業中の長期インターンシップは第五波と重なってしまい、急遽オンラインでの実施を強いられました。現場の作業はできませんでしたが、WEBを通じて学生が学んだことを日誌にまとめ、それを企業様からご評価いただくという形で無事に終了することができ、九名の学生が単位を取得することができました。



就職指導委員長

横山 和哉

就職支援の

取り組みと現状

ます。また、今年度もWEBで四月に新入生保護者説明会、六月に二、三、四年次生への保護者説明会を開催しました。そして例年、前期と後期の年二回教育相談会を実施していますが、今年度前期は、六月に四年生を対象に国家試験対策の強化に向けて、学生を交えて保護者と二人の教員による四者面談を実施いたしました。後期は年度末三月中旬成績が心配な学生を対象とした四者面談を実施し学生を支援して参ります。

今年度も学生の意見を聞きながら、充実した学生生活づくりから、学生と共に努力し活動していきたいと考えております。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願いたします。

た。十月十一日及び十一月十日には就職情報交換会を実施し、昨年と同様にオンライン開催となりました。WEB開催二年目となるため、企業様も教員もスムーズに面談を進めることができ、東京方面百四十一社、足利方面百四十九社と情報交換を行うことができました。十二月七日には、二年ぶりに積尊成道会法要及び特別講演会が開催されました。大学の講義が学生の半数が対面、半数がリモートという形態で実施されていたため、これに従って半数の学生が大講義室で参加しました。特別講演会は、講師に栃木セキスイハイム株式会社・人材開発室課長の道合かおり様を招き、「これから社会人になる皆様、就職活動をされる皆様への説明会を昨年に続きオンラインで

開催し、七施設よりリモートでの説明をいただきました。三年生七十八名が参加し、学生の満足度も高かったようです。

本年は、三月に「求人受付NAV1」というシステムを導入したこともあり、工学部二、七三三社、大学院八、七二社、看護学部百四十三社（七、二二二現在）と大変多くの企業様より求人をお願いしております。求人状況は上向きとなっておりますので、すべての学生が希望の企業に就職できるように、本人、教職員、後援会の皆様引き続き連携できればと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願申し上げます。

令和4年度 足利大学後援会役員一覧

| 役職 | 氏名 | 所在市 | 学生所属学科・分野 | 学年 |
|----|-----------|-------|-----------|----|
| 1 | 会長 鈴木政弘 | 足利市 | 建築・土木分野 | 4 |
| 2 | 副会長 宇野健司 | 茨城町 | 建築・土木分野 | 4 |
| 3 | 副会長 清水良男 | 足利市 | 看護学科 | 4 |
| 4 | 会計 吉田知子 | みどり市 | システム情報分野 | 4 |
| 5 | 会計 和田育子 | 足利市 | 電気電子分野 | 4 |
| 6 | 監事 増澤香織 | 足利市 | 看護学科 | 3 |
| 7 | 監事 上野ゆり子 | 下野市 | 看護学科 | 1 |
| 8 | 理事 市川克弘 | 高崎市 | 建築・土木分野 | 4 |
| 9 | 理事 青木順 | 足利市 | 建築・土木分野 | 4 |
| 10 | 理事 井口早苗 | 下野市 | 看護学科 | 4 |
| 11 | 理事 館岡信枝 | 桐生市 | 看護学科 | 4 |
| 12 | 理事 名和久美子 | 足利市 | 看護学科 | 4 |
| 13 | 理事 牛久雅広 | 栃木市 | 機械分野 | 3 |
| 14 | 理事 神谷和与 | 熊谷市 | システム情報分野 | 3 |
| 15 | 理事 小暮陽子 | みどり市 | 建築・土木分野 | 3 |
| 16 | 理事 永田淳子 | 栃木市 | 建築・土木分野 | 3 |
| 17 | 理事 青木真由美 | 太田市 | 看護学科 | 3 |
| 18 | 理事 大橋弘 | 太田市 | 看護学科 | 3 |
| 19 | 理事 吉澤朋 | 足利市 | 看護学科 | 3 |
| 20 | 理事 高田美恵子 | 足利市 | 機械分野 | 2 |
| 21 | 理事 椎名啓恵 | 足利市 | 電気電子分野 | 2 |
| 22 | 理事 福地めぐ美 | 館林市 | 電気電子分野 | 2 |
| 23 | 理事 木村沙織 | 佐野市 | システム情報分野 | 2 |
| 24 | 理事 田中貴子 | 佐野市 | システム情報分野 | 2 |
| 25 | 理事 谷川宏明 | 桐生市 | システム情報分野 | 2 |
| 26 | 理事 齋藤尚美 | 足利市 | 建築・土木分野 | 2 |
| 27 | 理事 松島由美子 | 伊勢崎市 | 建築・土木分野 | 2 |
| 28 | 理事 新藤美穂 | 佐野市 | 看護学科 | 2 |
| 29 | 理事 齋藤三和 | 足利市 | 看護学科 | 2 |
| 30 | 新理事 町田忍 | 邑楽郡 | 機械分野 | 1 |
| 31 | 新理事 八幡孝行 | 前橋市 | 電気電子分野 | 1 |
| 32 | 新理事 岡田誠 | 前橋市 | 電気電子分野 | 1 |
| 33 | 新理事 國安三紀子 | さくら市 | システム情報分野 | 1 |
| 34 | 新理事 櫻井麻美 | 足利市 | システム情報分野 | 1 |
| 35 | 新理事 相澤美佐子 | 佐野市 | 建築・土木分野 | 1 |
| 36 | 新理事 高野美奈 | 足利市 | 建築・土木分野 | 1 |
| 37 | 新理事 若井周平 | 河内郡 | 看護学科 | 1 |
| 38 | 顧問 川崎浩司 | さいたま市 | | |

足利大学後援会収支決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部

(単位 円)

| 科目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差異(B)-(A) | 摘要 |
|-----|------------|------------|-----------|--------------------------------------------|
| 繰越金 | 25,225,673 | 25,225,673 | 0 | |
| 会費 | 33,950,000 | 34,000,000 | 50,000 | 1,360名分(@25,000円)(工学部1,030名、看護学部330名) |
| 雑収入 | 60,000 | 283,953 | 223,953 | 学生災害傷害保険異動返還金 93,330円 クラブ援助金返金 190,623円 |
| 計 | 59,235,673 | 59,509,626 | 273,953 | |

支出の部

(単位 円)

| 科目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差異(B)-(A) | 摘要 |
|---------|------------|------------|--------------|------------------------------|
| 1 運営費 | 2,800,000 | 1,538,462 | △ 1,261,538 | |
| 会議費 | 1,400,000 | 410,408 | △ 989,592 | 後援会総会・理事会等諸費用・退会役員記念品 |
| 事務費 | 500,000 | 360,000 | △ 140,000 | 事務費一般 |
| 印刷費 | 250,000 | 197,494 | △ 52,506 | 封筒・会報印刷代 |
| 通信費 | 650,000 | 570,560 | △ 79,440 | 後援会総会通知発送費・会報発送費 |
| 2 学生助成費 | 27,900,000 | 7,215,899 | △ 20,684,101 | |
| 学生研究補助費 | 900,000 | 0 | △ 900,000 | |
| クラブ援助費 | 12,000,000 | 1,930,977 | △ 10,069,023 | 連盟費・交通費等 |
| 学生活動費 | 10,000,000 | 0 | △ 10,000,000 | |
| 卒業記念費 | 3,000,000 | 3,695,152 | 695,152 | 卒業アルバム・記念品等 |
| 保険料 | 2,000,000 | 1,589,770 | △ 410,230 | 学生災害傷害保険料 |
| 3 教育助成費 | 17,000,000 | 7,408,647 | △ 9,591,353 | |
| 就職推進補助費 | 2,000,000 | 587,227 | △ 1,412,773 | 成道会特別講演・就活支援ブック等 |
| 厚生事業費 | 3,000,000 | 826,220 | △ 2,173,780 | 資格支援・抗体価検査代・謝礼・2年生進級記念写真・法被等 |
| 教育環境援助費 | 12,000,000 | 5,995,200 | △ 6,004,800 | 実習宿泊補助・空手マット・緞帳工事一式 |
| 4 慶弔費 | 700,000 | 374,100 | △ 325,900 | 入学式等献花代 香典 他 |
| 5 雑費 | 100,000 | 1,000 | △ 99,000 | 印紙 |
| 6 積立金 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 | |
| 7 予備費 | 735,673 | 0 | △ 735,673 | |
| 8 研修費返還 | 0 | 0 | 0 | |
| 9 繰越金 | 0 | 32,971,518 | 32,971,518 | |
| 計 | 59,235,673 | 59,509,626 | 273,953 | |

積立金の部

(単位 円)

| | |
|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 0 |
| 一般会計より | 10,000,000 |
| 合計 | 10,000,000 |
| 支払金額 | 0 |
| 残高(繰越金) | 10,000,000 |

上記のとおり相違ありません。

令和4年3月31日

足利大学後援会 会計 吉田知子

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和4年6月4日

足利大学後援会 監事 柿沼一義
田島由有子

令和4年度 足利大学後援会予算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部

(単位 円)

| 科目 | 本年度予算額(A) | 前年度予算額(B) | 増減(A)-(B) | 摘要 |
|-----|------------|------------|-----------|------------------------------------------------|
| 繰越金 | 32,971,518 | 25,225,673 | 7,745,845 | |
| 会費 | 35,150,000 | 33,950,000 | 1,200,000 | 工学部1,073名分、看護学部333名(@25,000円) ※4月在籍数、休学留学除く |
| 雑収入 | 60,000 | 60,000 | 0 | 学生災害傷害保険異動返還金 |
| 計 | 68,181,518 | 59,235,673 | 8,945,845 | |

支出の部

(単位 円)

| 科目 | 本年度予算額(A) | 前年度予算額(B) | 増減(A)-(B) | 摘要 |
|---------|------------|------------|-------------|--------------------------------|
| 1 運営費 | 2,800,000 | 2,800,000 | 0 | |
| 会議費 | 1,400,000 | 1,400,000 | 0 | 後援会総会・理事会等諸費用 |
| 事務費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 事務費一般 |
| 印刷費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 後援会報発行印刷代 他 |
| 通信費 | 650,000 | 650,000 | 0 | 後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・AIT通信発送費 他 |
| 2 学生助成費 | 28,900,000 | 27,900,000 | 1,000,000 | |
| 学生研究補助費 | 900,000 | 900,000 | 0 | 卒業研究等補助 |
| クラブ援助費 | 12,000,000 | 12,000,000 | 0 | クラブ活動援助費 |
| 学生活動費 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 | 学生自治会援助金・大学祭援助 等 |
| 卒業記念費 | 4,000,000 | 3,000,000 | 1,000,000 | 卒業記念アルバム作成費 |
| 保険料 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 学生災害傷害保険料 |
| 3 教育助成費 | 15,000,000 | 17,000,000 | △ 2,000,000 | |
| 就職推進補助費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 就職関連補助 |
| 厚生事業費 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 | 朝食補助・情報処理資格試験補助 他 |
| 教育環境援助費 | 10,000,000 | 12,000,000 | △ 2,000,000 | 学内環境設備費(バスケットゴール・大学名入りテント) |
| 4 慶弔費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 入学式献花・香典 他 |
| 5 雑費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 6 積立金 | 20,000,000 | 10,000,000 | 10,000,000 | |
| 7 予備費 | 681,518 | 735,673 | △ 54,155 | |
| 計 | 68,181,518 | 59,235,673 | 8,945,845 | |

積立金の部

(単位 円)

| | |
|--------|------------|
| 前年度繰越金 | 10,000,000 |
| 一般会計より | 20,000,000 |
| 合計 | 30,000,000 |

まず初めに大学での授業状況について報告いたします。

令和三年度はコロナ禍が続いており、授業についてはオンライン授業と対面授業のハイブリット型での実施となりました。第六波を迎えては対面での定期試験を控えることもありましたが、概ねコロナ感染症と対峙しながら授業を終えることができました。

令和四年度は四月から全面対面授業を計画していましたが、コロナ感染症第六波の終盤ではあったものの、学生や保護者方からも一気に対面に戻すことへの不安が出ていたこともあり、最初の二週間は実験・実習科目を除きオンライン授業から始めることとなりました。不安の中ではありましたが、四月二十五日から全面対面授業となり、前期定期試験を終えるまで学内での授業を終えることができました。

コロナ対策の環としては、本学では足利市内の医師の方々の協力を得て足利短期大学を含む法人全教職員一丸となり、本城キャンパスを会場とするコロナワクチンの職域接種を実施しました。続いて令和四年四月には三回目の接種を実施しました。この職域接種により学生、教職員も多くがワクチン接種を済ませ、多少なりとも安心できる学内での環境を整えられたのではないかと考えております。

大学祭「わたらせ祭」については、例年であれば後援会のバックアップを受け賑やかに開催される「わたらせ祭」ですが、完全オンラインで一日のみという形の開催となりました。しかしながら、「わたらせ祭」の開催は三年ぶりであり、「お笑いライブ・トークショーを始め各種ゲームなどをまじえ大変充実した「わたらせ祭」を成功させております。令和四年度においても十月の状況が不確実なこともあり、二日間のオンラインでの実施を考えております。

なお、後援会から綴帳や備品をご寄付いただきました新体育館の竣工式を済ませることができ、コロナ感染症対策を実施しながら体育の授業やクラブ活動に活用を始めております。また学生が自由に使用できるまでには時間がかかりますが、学生の要望も多いことから予防対策を講じながら開放していくことと考えております。

最後に、後援会における理事・会員の皆様からのご意見・ご要望について、事務局としても真摯に受け止め、学生へのサポート、満足度の改善等について最善の方策を探りながら進めていきたいと考えております。今後も後援会会員の皆様のご協力をお願いいたします。

事務局 便り